

多重ループ

```

void matmul(int n, myuint A[], myuint B[], myuint AB[])
{
  int i;
  for(i=0; i<n; i++)
  {
    int j;
    for(j=0; j<n; j++)
    {
      myuint s=0;
      int k;
      for(k=0; k<n; k++)
      {
        s = s + A[i*n+k]*B[k*n+j];
      }
      AB[i*n+j] = s;
    }
  }
}

```

これは、Reversible Languages and Incremental State Saving in Optimistic Parallel Discrete Event SimulationのListing 1.3.をC言語に直したコードである。このコードの*i*, *j*, *k*の値は各ループ終了時に*n*となる。*n*は引数であるため、*n*の値は関数の外部で保存される。さらに、*n*は全く変更されないため、関数本体で*n*の値を保存しなくても、逆実行時に*n*の値は関数外部で復元される。したがって、*n*の値を保存する必要はない。また、*i*, *j*, *k*は通常の変換ではそれぞれの変数のスコープを抜ける際に保存されなければならないが、変数のスコープを抜ける際の値はすべて*n*の値であり、*n*の値は外部で保存されることにより、*i*, *j*, *k*の値は関数外部で保存されることになるため、*i*, *j*, *k*の値を保存する必要はない。したがって、次のような可逆化が提案できる。

	元のコード	順方向	逆方向
旧	<pre> void f(int x) { s } </pre>	<pre> void f(int x) { s SAVE(x); } </pre>	<pre> void rev_f(int x) { RESTORE(x); rs } </pre>
新	<pre> void f(int x) { s } </pre>	<pre> void f(int x) { s } </pre> <p>(<i>s</i>で<i>x</i>に対する副作用がない)</p>	<pre> void rev_f(int x) { rs } </pre>

	元のコード	順方向	逆方向
--	-------	-----	-----

<pre>void f(int n) { int i; i=0; while(i<n) { s i++; } }</pre>	<pre>void f(int n) { int i; int c=0; i=0; while(i<n) { c++; s i++; } SAVE(n); SAVE(i); SAVE(c); }</pre>	<pre>void f(int n) { int i; int c; RESTORE(c); RESTORE(i); RESTORE(n); while(c) { --i; rs --c; } }</pre>
<pre>void f(int n) { int i; i=0; while(i<n) { s i++; } }</pre>	<pre>void f(int n) { int i; i=0; while(i<n) { s i++; } } (sでnとiに対する副作用がない)</pre>	<pre>void f(int n) { int i; i=n; while(i) { --i; rs } }</pre>

上記は、引数の値が関数本体で変わらない場合の変換と、引数の値が関数本体で変わらず、ループの繰り返し回数に引数の値が使用されている場合の変換である。元の変換と比べると、関数の引数を保存せずに済み、追加の繰り返し回数の変数を保存せずに済み、元の繰り返し回数も保存せずに済む。これを先ほどのmatmul()に適用すると次のようになる。

標準化	順方向	逆方向
<pre>void matmul(int n, myuint A[], myuint B[], myuint AB[]) { int i; i=0; while(i<n) { int j; j=0; for(j<n) { myuint s; s=0; int k;</pre>	<pre>void matmul(int n, myuint A[], myuint B[], myuint AB[]) { int i; i=0; while(i<n) { int j; j=0; while(j<n) { myuint s; s=0; int k;</pre>	<pre>void matmul(int n, myuint A[], myuint B[], myuint AB[]) { int i; i=n; while(i) { int j; j=n; --i; while(j) { myuint s; int k;</pre>

<pre> k=0; for(k<n) { s = s + A[i*n+k]*B[k*n+j]; k++; } AB[i*n+j] = s; j++; } i++; } </pre>	<pre> k=0; while(k<n) { SAVE(s); s = s + A[i*n+k]*B[k*n+j]; k++; } SAVE(AB[i*n+j]); AB[i*n+j] = s; j++; } i++; } </pre>	<pre> k=n; --j; while(k) { --k; RESTORE(s); } RESTORE(AB[i*n+j]); } } </pre>
--	--	--

これで各ループ終了後の繰り返し回数の保存と、関数を抜ける際の保存がなくなった。以前の
変換では、繰り返し回数が保存されるループに対して、2つの変数の保存が必要だった。
最も内側のループは n^3 回の繰り返し、1つ外側のループは n^2 回の繰り返し、最も外側の
ループは n 回の繰り返しであるため、 $2n^2+2n$ 個の変数を保存しなくてもよくなった。

このコードでは最も内側のループに $s = s + A[i*n+k]*B[k*n+j];$ があるため、 $SAVE()$ が n^3 回呼
び出されてしまう。しかし、 $s = s + A[i*n+k]*B[k*n+j];$ は $s += A[i*n+k]*B[k*n+j];$ と同等の計算
であり、変数 s の型は`myuint`である。`myuint`は8, 16, 32, 64bitの符号なし整数型のどれかな
ので、計算でオーバーフローはしない。したがって、 $s += A[i*n+k]*B[k*n+j];$ にコードを変換すれ
ば変数の値を保存する必要はない。ここで、次のような変換が提案できる。

元のコード	標準化
$v = v + e$	$v += e$ (e で v が記述されていない)

この変換で、破壊的な代入である $=$ 演算を $+=$ 演算にすることにより、左辺の変数の型によっ
ては $SAVE()$ を呼び出す必要がなくなる。

Reverse C Compilerでは、配列の保存に対して議論されていなかった（配列を $SAVE()$ する
と配列の先頭のポインタが保存されるだけ）のでそれを拡張する必要がある。